

< 蛇の目 >

桑原紀子

5月のある日、庭に大きな青大将が現れました。こんなに大きな蛇を見るのは、久しぶりです。

私より先に庭にいたらしく、私が出て行くと、動きを察してユルリと移動し始めました。門扉に絡まって、これで誤魔化せるとふんだのか、じっと動きを止めています。

蛇はそんなに怖くないので、側に行きジロジロ眺めました。

蛇はさすがに嫌って、ブロック塀の上に移りました。垂れていた尻尾をまっすぐ伸ばしたので、家から物差しを取ってきて計ってみると、1メートル40センチありました。青みがかったきれいな鱗がびっちり身体を覆っています。

まるで芸術品のような精巧な美しさです。目はぱっちり見開いています。

私に敵意がないのを感じたのか、青大将はなんだかくつろいだ雰囲気の時折舌をちょろちょろと出したりしています。

蛇の目を見ていたら、昔の事を思い出しました。

20数年前、小学校にあがったばかりの息子は、毎日田んぼの畦を歩いて泥んこになって帰ってきました。

あの頃の真光寺川沿いは田んぼや湿地が広がり、蛇も数種類いました。我が家の3人の子供たちは、

ヤゴやオタマジャクシや蛇を捕まえてきたものです。捕まえるのは、たいいてい赤いまだら模様のヤマカガシでした。シマヘビは気が荒く、追いかけている内に



逆襲されて半ズボンの足から血を流しながら帰ってきたこともありました。シロマダラという青い段だら模様のきれいな蛇が車にひかれて死んでいたり、時にはママシが木にのぼっていたりしました。

ある日一年生の息子は自分の背丈の半分もありそうなヤマカガシを両手に一匹ずつぶら下げて帰ってきました。庭にいた私に、「おしっこするから持ってくる？」というのです。まだ若く蛇も怖かった私が「いやだ」というと、「えーかわいいのに…。蛇の目って、鳥みたいでかわいいんだよ」と、真剣な顔で言うのです。

息子は残念そうにヤマカガシを逃しましたが、その前に私は蛇の目を見ました。本当に丸くパッチリして、鳥の目と同じでした。ひとつ発見したような気持ちがありました。

その時の不思議な気持ちが今よみがえってきました。あまり蛇が怖くなくなったのは、小さかった息子のおかげかもしれません。

しばらく私の相手をしてくれた蛇は、塀に沿ってすすると裏山に帰って行きました。

